

を2回散布したところ、施用後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、0.022 ppm

クロチアニジン：0.008、0.018 ppm

#### ⑤いんげん

いんげん(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を3回散布(300L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.012、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.049、<0.005 ppm

いんげん(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、35%フロアブル(12mL/1kg種子)を1回塗沫処理、0.5%粒剤(6kg/10a)を1回使用及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a、175-200L/10a)を3回散布したところ、施用後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.01、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.01、<0.01 ppm

#### ⑥ばれいしょ

ばれいしょ(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和(9kg/10a)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、施用後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、0.100 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.020 ppm

ばれいしょ(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤(6kg/10a)を1回作条土壌混和、および10%顆粒水溶剤の750倍希釈液(25L/10a)を3回散布したところ、施用後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.02、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.02、<0.01 ppm

#### ⑦さといも

さといも(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤(6kg/10a)を1回植穴処理及び1回株元散布したところ、散布後30~45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.14、0.039 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.022、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回植穴処理及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.038、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

#### ⑧かんしょ

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和（9kg/10a）したところ、散布後112、117日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（9kg/10a、6kg/10a）を作条土壌混和処理を1回及び株元土壌混和処理を1回行ったところ、施用後21～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.012、0.006 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

#### ⑨こんにゃくいも

こんにゃくいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後132～159日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.01、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

#### ⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理（1L/冊）したところ、処理後150～170日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

### ⑪だいこん

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.009、0.012 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.006 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.320、0.247 ppm

クロチアニジン：0.254、0.137 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.011、0.028 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.358、0.378 ppm

クロチアニジン：0.136、0.122 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日

の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.015、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

#### ⑫はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～81日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.016、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、120-200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.072、0.354 ppm

クロチアニジン：0.007、0.020 ppm

#### ⑬キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.310、0.078 ppm

クロチアニジン：0.028、<0.005 ppm

#### ⑭こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶液の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.92、2.34 ppm

クロチアニジン：0.10、0.360 ppm

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.58、2.10 ppm

クロチアニジン：0.14、0.40 ppm

⑮みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播種時作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、185.2L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.93、1.18 ppm

クロチアニジン：0.08、0.18 ppm

⑯チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を培土床土混和1回（15g/1L）、作条処理1回（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、220-250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.78、2.82 ppm

クロチアニジン：0.09、0.32 ppm

⑰ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後56～65日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、0.060 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理 2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈（300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.825、0.359 ppm

クロチアニジン：0.086、0.019 ppm

⑱カリフラワー

カリフラワー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（育苗箱処理 1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.128、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑲レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴

処理 1g/株)及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 7~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.290、0.614 ppm

クロチアニジン : 0.015、0.024 ppm

#### ⑩ サラダ菜

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 42~70 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.40、1.36 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.81、9.87 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.09 ppm

#### ⑪ リーフレタス

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 61~73 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.28、<0.05 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.34、3.14 ppm

クロチアニジン : 0.20、0.07 ppm

#### ⑫ ねぎ

ねぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回作条処理 (9kg/10a) したところ、処理後 69~131 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.094、0.078 ppm  
クロチアニジン : 0.022、0.022 ppm

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 9kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の1000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.566、0.557 ppm  
クロチアニジン : 0.059、0.076 ppm

#### ㊸にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、230L/10a）を3回散布したところ、施用後14、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.74、0.15 ppm  
クロチアニジン : 0.19、0.42 ppm

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、230L/10a）を3回散布したところ、施用後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.38 ppm  
クロチアニジン : 0.67 ppm

#### ㊹わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）したところ、処理後23～77日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.05、0.61 ppm  
クロチアニジン : <0.05、0.06 ppm

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）、1回株元処理（9kg/10a）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.28、3.96 ppm  
クロチアニジン : 0.08、0.21 ppm

#### ㊺アスパラガス

アスパラガス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤

の 2000 倍希釈液 (300L/10a) を 3 回散布したところ、散布後 7 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

#### ②⑥セロリ

セロリ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回株元処理 (2g/10a) 及び 1 回植穴処理 (2g/10a) したところ、処理後 75~112 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.1、0.30 ppm

クロチアニジン : <0.1、<0.1 ppm

#### ②⑦トマト

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 44 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.008 ppm

クロチアニジン : <0.005 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 3000 倍希釈液 (200L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.104 ppm

クロチアニジン : 0.018 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.077 ppm

クロチアニジン : 0.010 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.154 ppm

クロチアニジン : 0.024 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。



チアメトキサム : 0.156 ppm

クロチアニジン : 0.038 ppm

#### ㊸ ミニトマト

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 72、60 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、<0.02 ppm

クロチアニジン : 0.02、<0.02 ppm

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300-360L/10a、350L/10a) を1回散布したところ、施用後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.44、0.08 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.08 ppm

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300-360L/10a、350L/10a) を2回散布したところ、施用後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.79、0.17 ppm

クロチアニジン : 0.16、0.19 ppm

#### ㊸ ピーマン

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 42、82 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.023、<0.005 ppm

クロチアニジン : 0.008、<0.005 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株)、および 10%顆粒水溶剤の 3000 倍希釈液 (180L/10a、300L/10a) を2回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.200、0.267 ppm

クロチアニジン : 0.016、0.016 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) および 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (180L/10a、300L/10a) を2回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.411、0.310 ppm

クロチアニジン : 0.044、0.034 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.439、0.402 ppm

クロチアニジン：0.032、0.056 ppm

#### ⑩なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後97、108日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.069、0.040 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.121、0.054 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.106、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

#### ⑪ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.53、0.60 ppm

クロチアニジン：0.08、0.05 ppm

㊸とうがらし

とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、100-150L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.76、0.34 ppm

クロチアニジン：0.16、0.03 ppm

㊹きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後43、34日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（250L/10a、200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.076、0.104 ppm

クロチアニジン：0.005、0.006 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.172、0.162 ppm

クロチアニジン：0.010、0.008 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.141、0.132 ppm

クロチアニジン：0.008、0.008 ppm

㊺すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（176.5-200L/10a、76.1-272.4L/10a）を3回散布したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.017、0.046 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.007 ppm

### ㊸メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後83、87日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.007 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.049、0.029 ppm

クロチアニジン：0.006、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.023、0.064 ppm

クロチアニジン：0.008、0.014 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-217L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

### ㊹にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（100-200L/10a、202L/10a）を3回散布したところ、施用後7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.17、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

### ㊺食用へちま

食用へちま（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、180L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.11、0.09 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

㊸ えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.061、0.025 ppm

クロチアニジン：0.020、0.020 ppm

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブルを1回塗沫処理（12mL/kg 種子）、0.5%粒剤を1回株元処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.090、0.025 ppm

クロチアニジン：0.028、0.019 ppm

㊹ 未成熟いんげん

未成熟いんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（300L/10a、150L/10a）を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.071、0.053 ppm

クロチアニジン：0.074、0.118 ppm

㊺ ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250/10a）を2回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.26、2.62 ppm

クロチアニジン：0.68、0.75 ppm

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回播溝処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.96、4.02 ppm

クロチアニジン：0.58、1.20 ppm

㊻ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000

倍希釈液(150-210L/10a、200L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.30、0.21 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

#### ㊸れんこん

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を3回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

#### ㊹うこぎ

うこぎ(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布(150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.4、<0.2 ppm

クロチアニジン：<0.2、<0.2 ppm

#### ㊺エンサイ

エンサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.07、0.42 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

#### ㊻みょうが

みょうが(花穂)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

④モロヘイヤ

モロヘイヤ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-211 L/10a）を3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.66、0.36 ppm

クロチアニジン：0.43、0.34 ppm

④温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040、0.008 ppm

クロチアニジン：0.013、<0.005 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を2回散布したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.007、<0.005 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.65、0.74 ppm

クロチアニジン：0.28、0.12 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.58 ppm

クロチアニジン：0.24、0.12 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.08 ppm

クロチアニジン：0.014 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤